

北上市男女共同参画と多様性社会に関するアンケート（速報結果）

○調査目的：

北上市では、「北上市男女共同参画と多様性社会を推進する条例」を制定し、誰もが多様性を認め合い、いきいきと自分らしく暮らせるまちづくりを進めています。このアンケートは、同条例に基づき、市民のみなさまの認識や経験をたずね、それらがどのように関連しあっているのかを分析し、施策に反映させることを目的としています。

○調査日時：

2020年1月30日～2020年2月28日

○調査方法：

住民基本台帳による無作為抽出法

郵送による調査票配布と返送もしくはインターネット専用ページへの入力による回答

<アンケート回答率>

年代	調査票返信	WEB回答	合計	※WEB割合
20代以下	56	7	63	11%
30代	70	12	82	15%
40代	100	14	114	12%
50代	52	10	62	16%
60代	91	3	94	3%
合計	369	46	415	11%

●1,200枚のうち60枚は

市内幼稚園・保育園の協力のもと、保護者に配布した。

●郵送数1,200枚に対しての回収率は34.5%であった。

A1 性別

項目	n	(%)
女性	225	54.3%
男性	189	45.7%
回答者数	414	

A2 年代

項目	n	(%)
10代	17	4.1%
20代	46	11.1%
30代	82	19.8%
40代	114	27.5%
50代	62	14.9%
60代以上	94	22.7%
回答者数	415	

A 世帯構成

項目	n	(%)
単身世帯	34	8.3%
配偶者のみ	71	17.3%
二世帯世帯	206	50.1%
三世帯世帯	82	20.0%
その他	18	4.4%
回答者数	411	

A4 職業

項目	n	(%)
1会社員	166	40.3%
2会社経営	9	2.2%
3公務員・団体職員	45	10.9%
4自営業（農林水産業）	8	1.9%
5自営業（農林水産業以外）	25	6.1%
6パート、派遣社員、内職、アルバイト	70	17.0%
7専業主婦[主夫]	38	9.2%
8学生	19	4.6%
9無職	32	7.8%
回答者数	412	

A7 あなたの北上市の在住年数は

項目	n	(%)
1年未満	15	3.6%
1年以上3年未満	19	4.6%
3年以上5年未満	18	4.3%
5年以上10年未満	27	6.5%
10年以上20年未満	80	19.3%
20年以上	256	61.7%
回答者数	415	

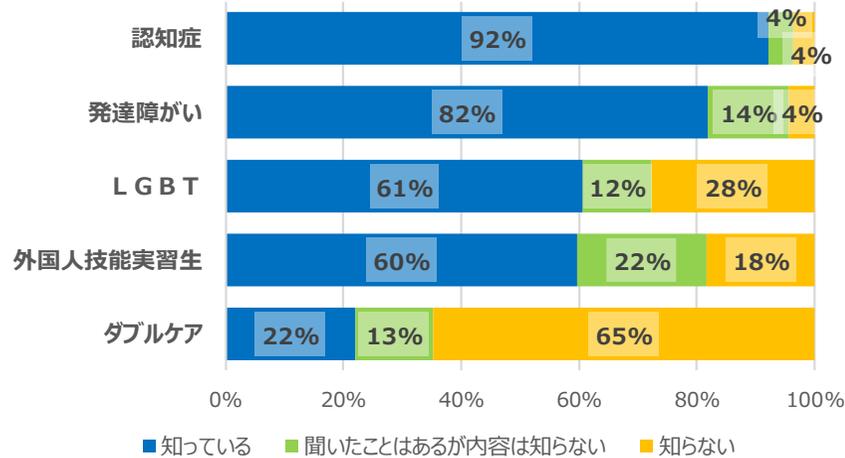
<さまざまなちがいに対する認知>

設問

- Q. あなたは次の事項（発達障がい、外国人技能実習生、LGBT、ダブルケア、認知症）を知っていますか？
- Q. あなたの周囲（*家族・地域・職場等）では、それに当てはまる方がいますか？

結果・分析

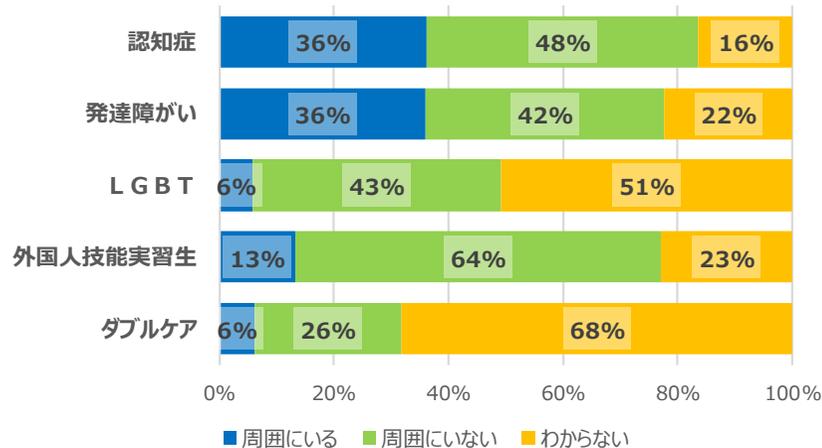
ちがいの認知



設問の意図

本設問は、性別、年代、それぞれのライフステージ、障がいの有無や国籍、言語の認知、性的な指向等、**ちがい**があることによる不利益が生じていないかを明らかにするものである。その中で、特に近年注目されている事項5つに対して、その認知(*ここでは、ちがいに関する単語を知っているかどうかを基準とする。)と、自分の周囲にちがいのある人がいるかどうかを質問した。

ちがいがある人が周囲にいるか



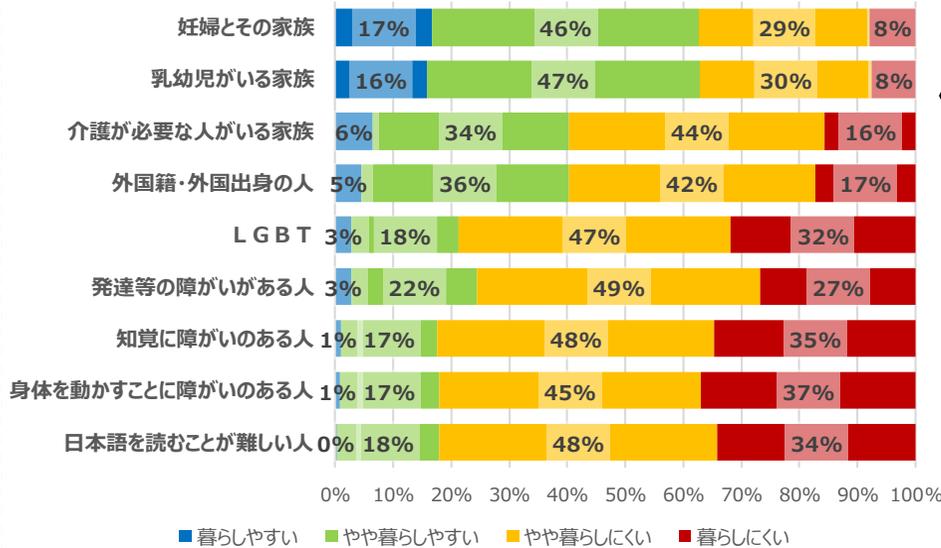
- ちがいの認知においては、認知症が最も高く、ダブルケアが最も低かった。また、周囲にその人がいるかという質問においては、LGBT、ダブルケアが低かった。
- ちがいがある人が周囲にいるかにおいては、LGBTでは、51%がわからないと回答した。
- 認知症は高齢者の15.0%（厚生労働省2012年）、発達障がいを持つ児童は児童全体の6.5%（文部科学省2012年）、外国人技能実習生は市内で224人（岩手労働局2018年10月末）、LGBTは8.9%（電通総研2018年）、ダブルケアを行う人は15歳以上の人口の0.2%（内閣府2016年）となっている。

<ちがいがあることと暮らしやすさ>

設問

Q. あなたの周囲（*地域・職場等）は次の人にとって「暮らしやすい」と思いますか。あなたが日常生活している中でイメージ・認識として、それぞれの項目に対し最もあてはまるもの1つに○をしてください。

ちがいがあっても暮らしやすいと思うか



- 子育てに関する項目は、他と比較すると、相対的には暮らしやすい傾向に回答している。
- LGBTの項目に「暮らしにくい」と回答する割合は、様々な障がいや日本語を読めないことと同様に高い割合であった。
- 日本語を読むことが難しい人の項目に「暮らしやすい」と回答した割合は0%であった。

結果・分析

- 別設問（*「Q. あなたの周囲で女性の能力は十分活用されていると思いますか？」）で「女性の力が活かされている」と回答している人ほど、子育ての項目で暮らしやすいと回答する割合が高かった。

	合計	女性活躍の認識		
		活かされている	どちらでもない	活かされていない
		活かされている	どちらでもない	活かされていない
暮らしにくい	n 32 % 8%	13 11%	6 4%	13 10%
やや暮らしにくい	n 118 % 29%	26 22%	51 33%	41 32%
やや暮らしやすい	n 185 % 46%	47 40%	78 50%	60 47%
暮らしやすい	n 67 % 17%	31 26%	20 13%	15 12%
合計	n 402 % 100%	117 100%	155 100%	129 100%

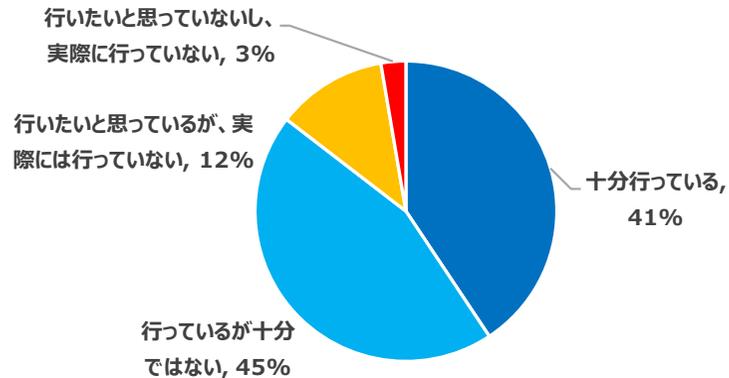
	合計	女性活躍の認識		
		活かされている	どちらでもない	活かされていない
		活かされている	どちらでもない	活かされていない
暮らしにくい	n 30 % 8%	11 9%	4 3%	15 12%
やや暮らしにくい	n 119 % 30%	27 23%	52 34%	40 31%
やや暮らしやすい	n 188 % 47%	55 47%	76 49%	57 45%
暮らしやすい	n 63 % 16%	24 21%	22 14%	16 13%
合計	n 400 % 100%	117 100%	154 100%	128 100%

<家庭での役割の認識および行動>

設問

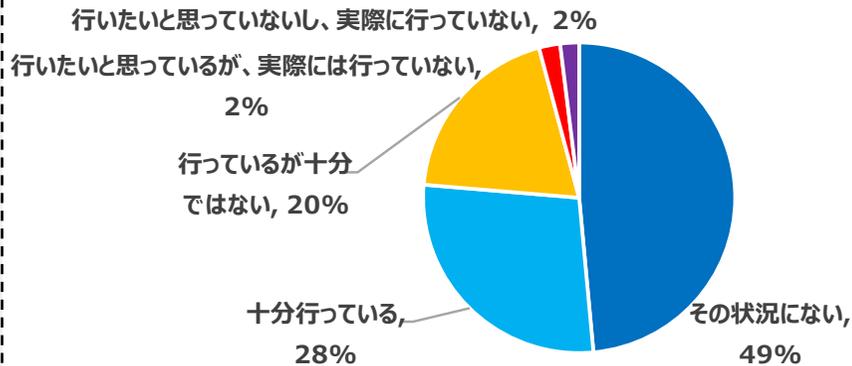
Q. あなたは家庭において家事、子育て、介護を行っていますか？

あなたは家庭において家事などを行っていますか

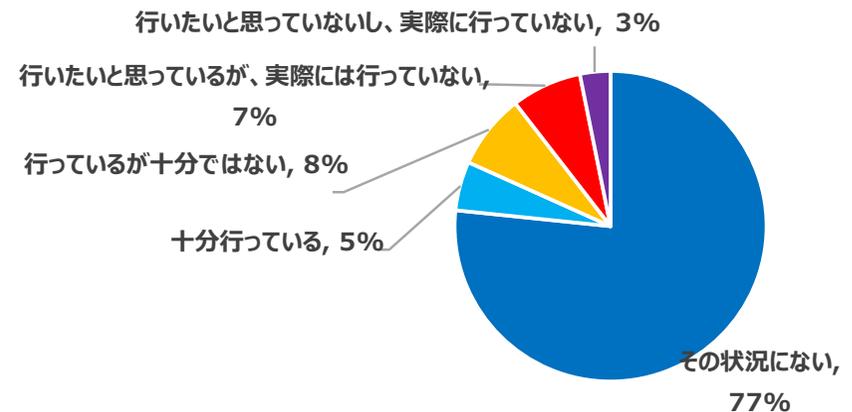


- 家庭における家事については、「十分に行っている」41%に対して、「意識はあるが十分ではない」(*「行っているが十分でない」と「行いたいと思っているが実際には行っていない」の合計)が57%となっており、意識しているが行えていない人の方が割合が高くなっている。
- 家庭における介護においては、「十分に行っている」5%に対して、「意識はあるが十分ではない」が15%と3倍になっており、介護においては、特に役割を果たせていないと感じている人が多い。
- 性別で比べると、家事、子育て、介護のそれぞれの項目で女性のほうが「十分に行っている」と回答している割合が高い。

あなたは家庭において子育てを行っていますか



あなたは家庭において介護を行っていますか



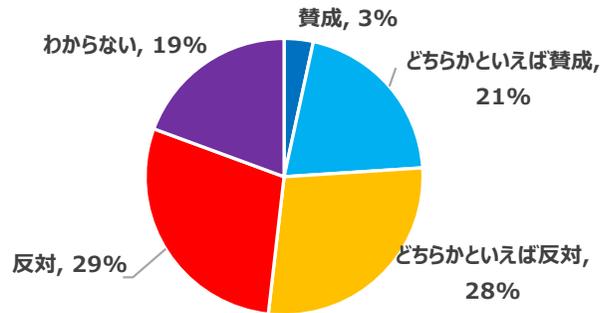
結果・分析

<男女の役割への意識・考え方>

設問

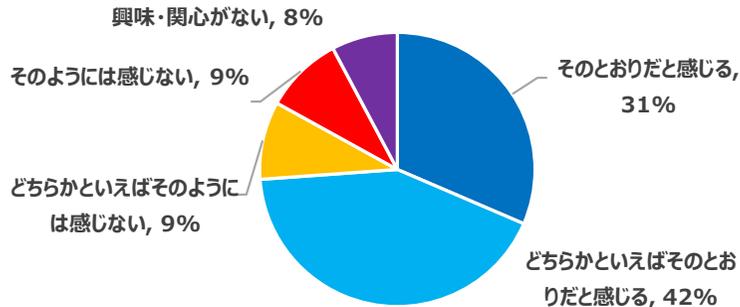
- Q. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか？
- Q. 日本の男女平等度が世界153カ国中121位と史上最低であることに對し、どう感じますか？
※2019年世界経済フォーラムの調査
- Q. あなたの周囲で女性の能力は十分活用されていると思いますか？

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか

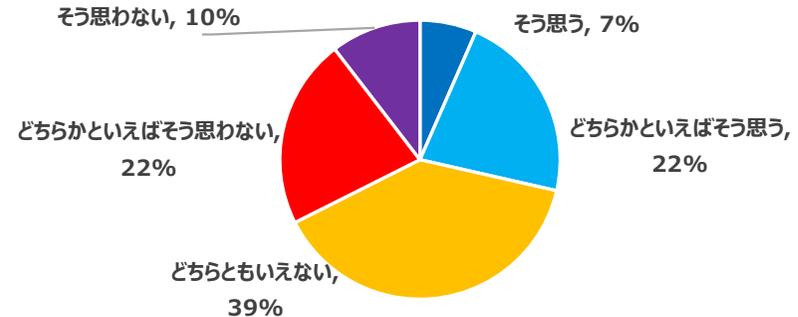


- 「夫は外で働き、女性は家庭を守るべき」という考え方については、反対側の考え方（どちらかといえば反対、反対）の割合が57%と過半数を超えた。年代別でみると、20代以下では特に反対の割合が高く、60代では賛成の割合が高かった。
- 「日本の男女平等度が世界153カ国中121位と史上最低であること」に対しては、**約3/4がおおむねそのとおりだと感じている**。
- 「あなたの周囲で女性の能力は十分発揮されているか」に関しては、29%がそう思うという傾向であった一方、32%がそう思わない傾向の回答となっている。

日本の男女平等度が世界153カ国中121位と史上最低であることに對し、どう感じますか



あなたの周囲で女性の能力は十分活用されていると思いますか



結果・分析

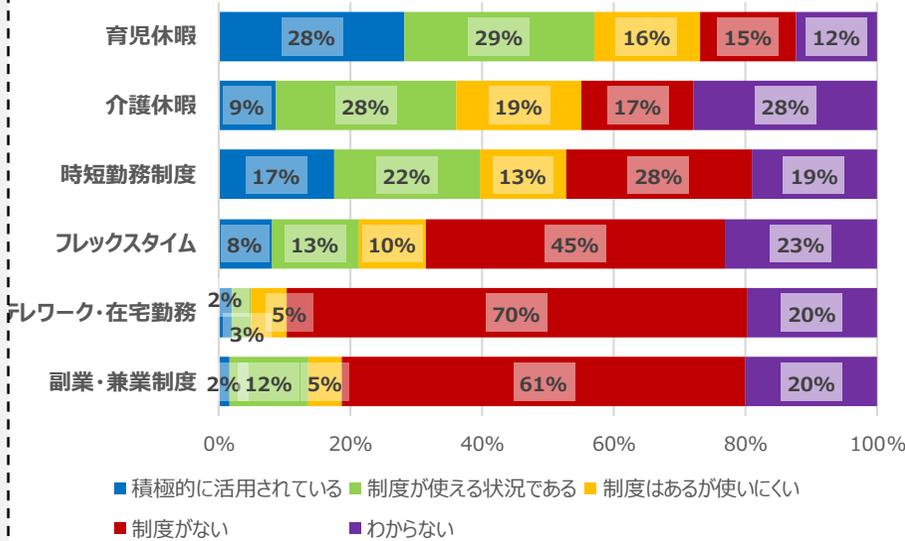
<多様な働き方への対応状況>

設問

Q. あなたの所属する職場・事業所・法人等では、次の制度（育児休暇、介護休暇、時短勤務制度、フレックスタイム、テレワーク・在宅勤務、副業・兼業制度）がありますか。また活用されていますか。

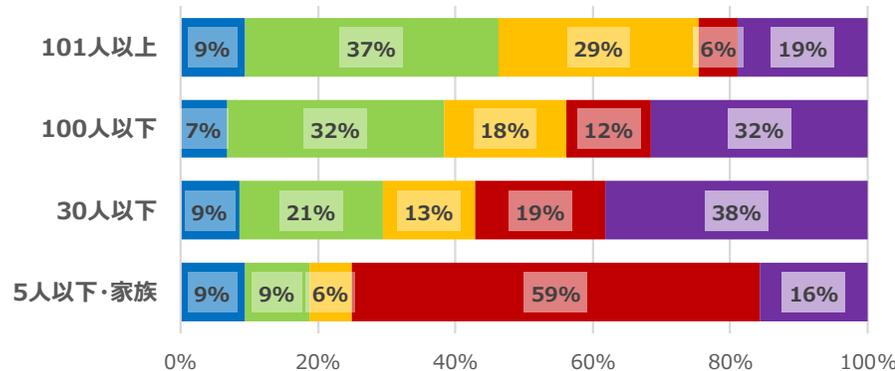
結果・分析

多様な働き方への対応

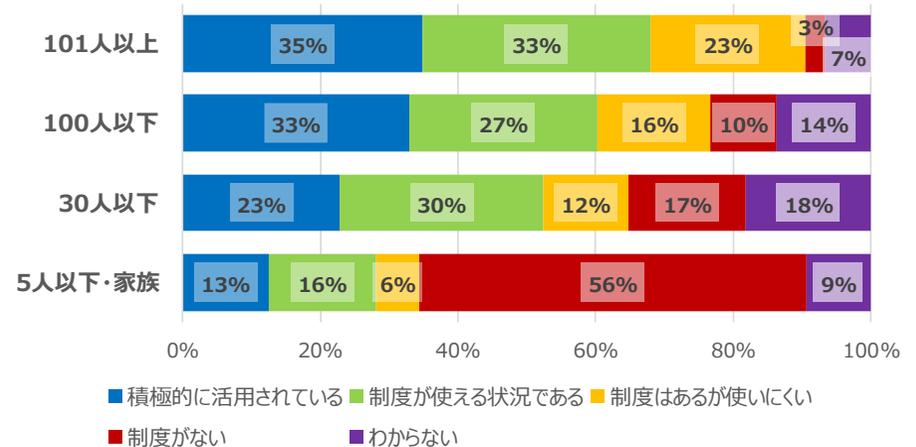


- 多様な働き方への対応においては、育児休暇が最も活用されていると回答した人の割合が高い。一方、その育児休暇においても、16%は「制度はあるが使いにくい」と回答している。
- 「テレワーク、在宅勤務」においては、70%が「制度がない」と回答しており、職場への出勤が主の業務体系である割合が高い。
- 事業所の規模別に比較すると、事業所の規模が大きい程、多様な働き方に対する制度がある傾向にある。一方、制度を認知している人の1/3程度は、「制度はあるが使いにくい」と回答している。

多様な働き方への対応【介護休暇】×事業所規模



多様な働き方への対応【育児休暇】×事業所規模

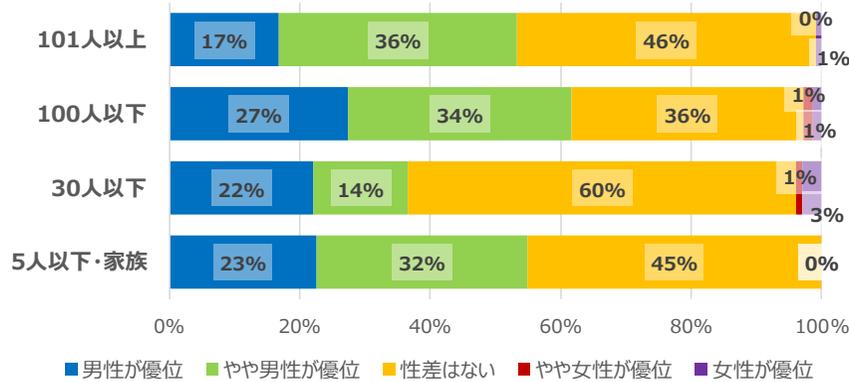


<仕事における男女差の認識>

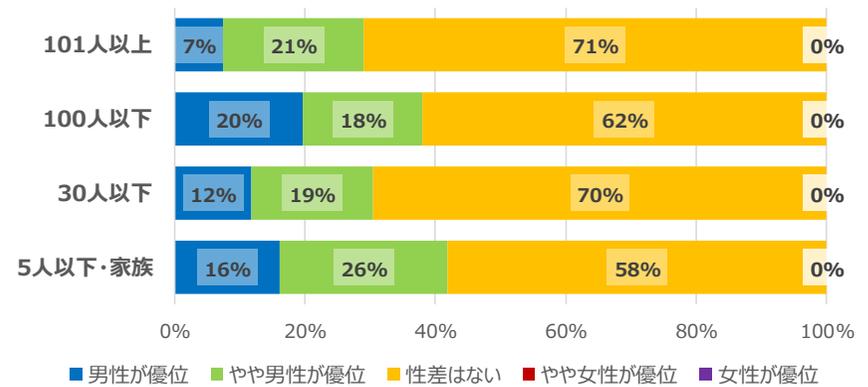
設問

Q. あなたの所属する職場・事業所・法人等は次の項目（業務での重要事項の決定、賃金、休暇制度の利用しやすさ、昇進・人事評価）で性別による差が生じていると感じますか。

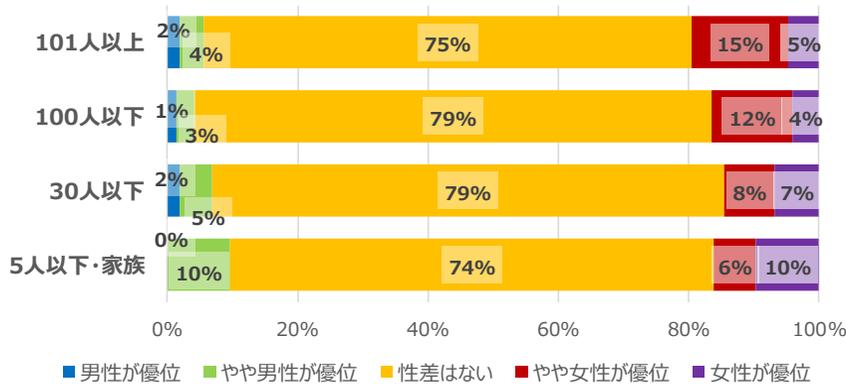
仕事における男女差の有無【重要事項の決定】×事業所規模



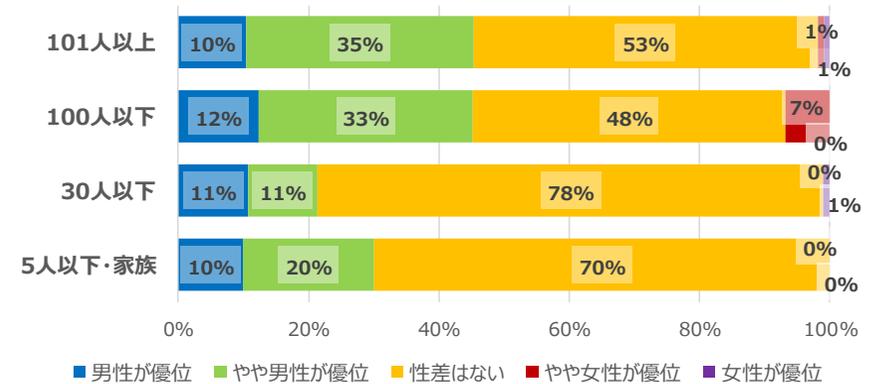
仕事における男女差の有無【賃金】×事業所規模



仕事における男女差の有無【休暇制度の利用】×事業所規模



仕事における男女差の有無【昇進・人事評価】×事業所規模



結果・分析

- 仕事における男女差の認識において、「重要事項の決定」「賃金」「昇進・人事評価」においては、男性が優位と認識している割合が、女性が優位と認識している割合と比べて高い傾向となっている。特に「重要事項の決定」においては、全体の半数以上が男性優位の傾向であると回答している。一方、休暇制度の利用においては、女性が優位と認識している割合が高い。
- 事業所の規模別だと「昇進・人事評価」において、規模が大きくなるほど、男性優位の傾向となっている。

<多様な働き方に向けた取り組みと女性の活躍への意識>

設問

Q. あなたの所属する職場・事業所・法人等は次の項目（業務での重要事項の決定、賃金、休暇制度の利用しやすさ、昇進・人事評価）で性別による差が生じていると感じますか。

F3-1 育児休暇

	女性活躍の認識			ライフスタイル実際		
	活かされている	どちらでもない	活かされていない	プライベート	両立	仕事優先
積極的に活用されている	n 40	27	22	n 27	22	40
	% 41%	23%	21%	% 42%	31%	22%
制度が使える状況である	n 25	38	28	n 14	24	52
	% 26%	32%	27%	% 22%	34%	29%
制度はあるが使いにくい	n 8	24	19	n 9	5	36
	% 8%	20%	18%	% 14%	7%	20%
制度がない	n 8	21	19	n 9	8	31
	% 8%	18%	18%	% 14%	11%	17%
わからない	n 16	8	15	n 5	11	23
	% 16%	7%	15%	% 8%	16%	13%
合計	n 97	118	103	n 64	70	182
	% 100%	100%	100%	% 100%	100%	100%

F3-2 介護休暇

	女性活躍の認識			ライフスタイル実際		
	活かされている	どちらでもない	活かされていない	プライベート	両立	仕事優先
積極的に活用されている	n 14	5	8	n 8	7	12
	% 14%	4%	8%	% 12%	10%	7%
制度が使える状況である	n 26	39	22	n 19	26	42
	% 27%	33%	22%	% 29%	37%	23%
制度はあるが使いにくい	n 13	29	17	n 13	6	40
	% 13%	24%	17%	% 20%	9%	22%
制度がない	n 12	21	24	n 9	11	37
	% 12%	18%	24%	% 14%	16%	20%
わからない	n 32	25	31	n 16	20	50
	% 33%	21%	30%	% 25%	29%	28%
合計	n 97	119	102	n 65	70	181
	% 100%	100%	100%	% 100%	100%	100%

F3-2 介護休暇

	女性活躍の認識			ライフスタイル実際		
	活かされている	どちらでもない	活かされていない	プライベート	両立	仕事優先
積極的に活用されている	n 14	5	8	n 8	7	12
	% 14%	4%	8%	% 12%	10%	7%
制度が使える状況である	n 26	39	22	n 19	26	42
	% 27%	33%	22%	% 29%	37%	23%
制度はあるが使いにくい	n 13	29	17	n 13	6	40
	% 13%	24%	17%	% 20%	9%	22%
制度がない	n 12	21	24	n 9	11	37
	% 12%	18%	24%	% 14%	16%	20%
わからない	n 32	25	31	n 16	20	50
	% 33%	21%	30%	% 25%	29%	28%
合計	n 97	119	102	n 65	70	181
	% 100%	100%	100%	% 100%	100%	100%

F3-4 フレックスタイム

	女性活躍の認識			ライフスタイル実際		
	活かされている	どちらでもない	活かされていない	プライベート	両立	仕事優先
積極的に活用されている	n 15	4	6	n 8	4	13
	% 15%	3%	6%	% 13%	6%	7%
制度が使える状況である	n 12	17	13	n 10	12	20
	% 12%	14%	13%	% 16%	17%	11%
制度はあるが使いにくい	n 7	17	8	n 8	6	17
	% 7%	14%	8%	% 13%	9%	9%
制度がない	n 40	52	53	n 21	32	92
	% 41%	44%	52%	% 33%	46%	51%
わからない	n 23	28	22	n 17	16	39
	% 24%	24%	22%	% 27%	23%	22%
合計	n 97	118	102	n 64	70	181
	% 100%	100%	100%	% 100%	100%	100%

結果・分析

- 周囲で女性の能力が活かされていると回答した人は、どちらでもない、活用されていないと回答した人よりも、育児休暇、介護休暇、時短勤務、フレックスタイム等の多様な働き方が積極的に使われていると回答した割合が高い。
- 育児休暇、介護休暇等の多様な働き方が積極的に活用されていると回答した人は、実際のライフスタイルにおいて「プライベート」を優先できていると回答した割合が高い。

<外国人と日本人の職場での優位性>

設問

Q. あなたの日常生活における【仕事】【家庭生活】【地域・個人の生活】の希望する優先度と、実際の優先度についてあてはまるもの1つに○をしてください。

結果・分析

- 「業務での重要事項の決定」「賃金」「昇進・人事評価」の3つの項目全てで、「外国人が優位」と回答した人はいなかった。
- 特に業務における重要事項の決定においては、半数以上が日本人が優位な傾向があると回答をしていた。
- 女性の能力が活かされていると感じるかどうかとクロス集計を行ったところ、女性の能力が活かされていると回答している人は、国籍の差はないと回答している割合が高かった。

F5-1 業務での重要事項の決定

		女性活躍の認識			
		合計	活かされている	どちらでもない	活かされていない
日本人が優位	n	105	32	38	35
	%	34%	33%	33%	36%
やや日本人が優位	n	71	16	32	23
	%	23%	17%	28%	24%
国籍の差はない	n	134	48	45	39
	%	43%	50%	39%	40%
やや外国人が優位	n	0	0	0	0
	%	0%	0%	0%	0%
外国人が優位	n	0	0	0	0
	%	0%	0%	0%	0%
合計	n	310	96	115	97
	%	100%	100%	100%	100%

F5-2 賃金

		女性活躍の認識			
		合計	活かされている	どちらでもない	活かされていない
日本人が優位	n	55	15	18	22
	%	18%	16%	16%	23%
やや日本人が優位	n	70	13	29	27
	%	23%	14%	25%	28%
国籍の差はない	n	184	67	69	47
	%	60%	71%	59%	49%
やや外国人が優位	n	0	0	0	0
	%	0%	0%	0%	0%
外国人が優位	n	0	0	0	0
	%	0%	0%	0%	0%
合計	n	309	95	116	96
	%	100%	100%	100%	100%

F5-3 昇進・人事評価

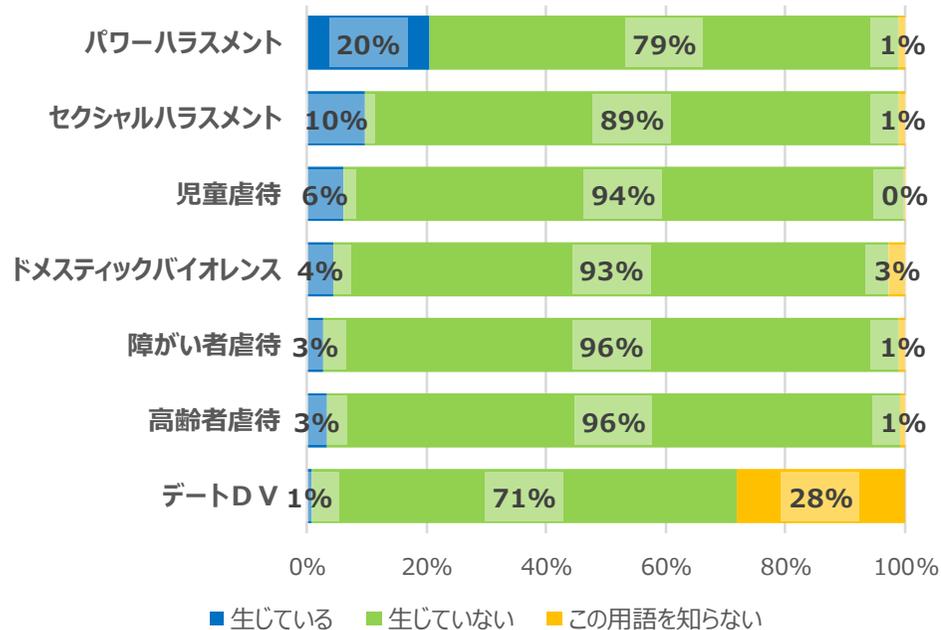
		女性活躍の認識			
		合計	活かされている	どちらでもない	活かされていない
日本人が優位	n	66	19	21	26
	%	21%	20%	18%	27%
やや日本人が優位	n	83	17	33	32
	%	27%	18%	29%	33%
国籍の差はない	n	158	59	60	38
	%	51%	62%	53%	40%
やや外国人が優位	n	0	0	0	0
	%	0%	0%	0%	0%
外国人が優位	n	0	0	0	0
	%	0%	0%	0%	0%
合計	n	307	95	114	96
	%	100%	100%	100%	100%

<周囲で生じている虐待・ハラスメントの認知と相談窓口>

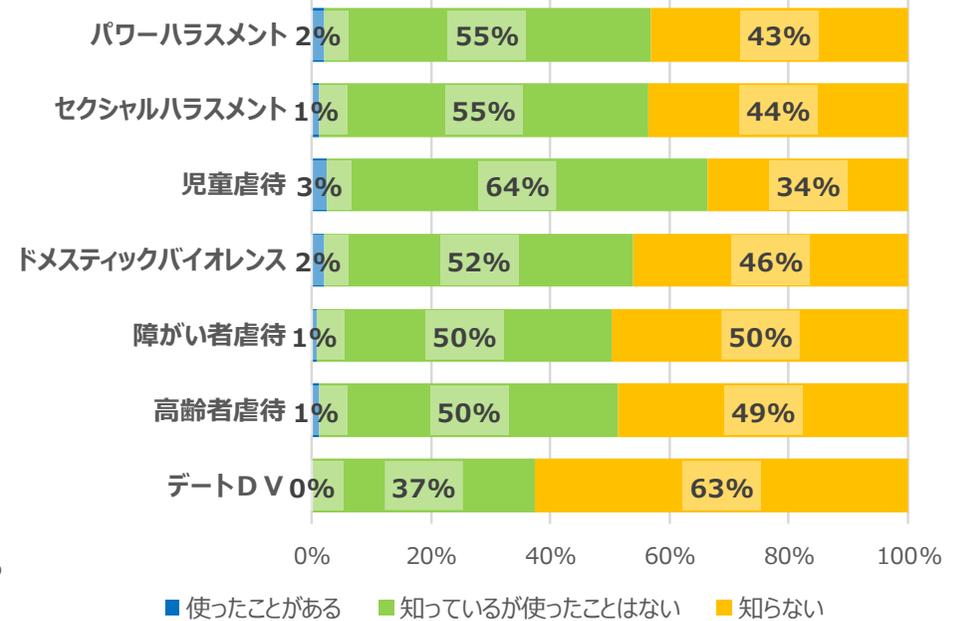
設問

Q. 次の事項（ドメスティックバイオレンス（DV）、デートDV、児童虐待（*身体的・心理的・ネグレクト等）、高齢者虐待、障がい者虐待、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント）について、あなたの周囲（*家庭・地域・職場等）で生じていますか。また、行政・民間の相談窓口を知っていますか。

周囲で生じている虐待・ハラスメントの認知



虐待・ハラスメントの相談窓口の認知・利用



結果・分析

- 周囲で生じている虐待・ハラスメントの認知においては、「パワーハラスメント」が周囲で生じていると回答した人が20%と最も高く、次いで、セクシャルハラスメント、児童虐待の順であった。
- 虐待・ハラスメントに対する相談窓口の認知においては、児童虐待が「使ったことがある」「知っているが使ったことはない」の両方ともに回答の割合が最も高かった。
- デートDVにおいては、用語の認知、相談窓口の認知とも低い傾向にある。

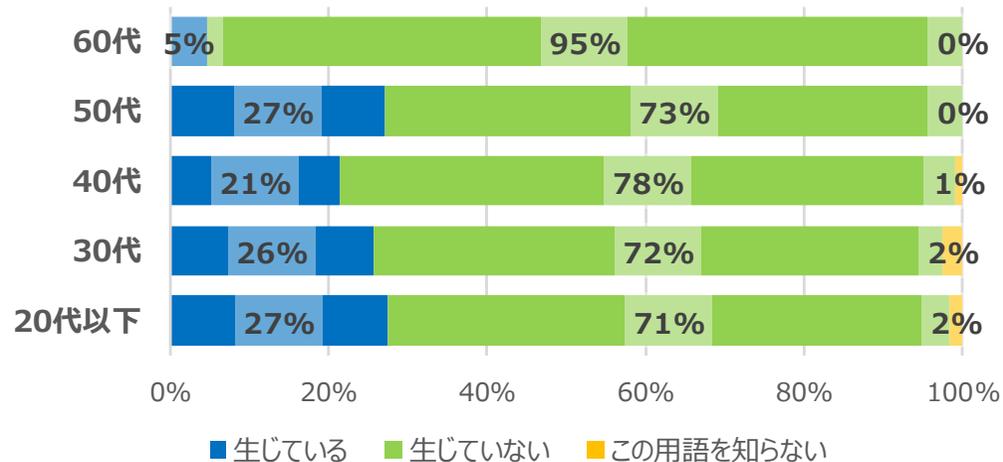
<周囲で生じている虐待・ハラスメント>

・周囲で生じている虐待・ハラスメントのうち、特に高いパワーハラスメントについて、年代別に整理した。その結果、60代を除くと約1/4が周囲にパワーハラスメントが生じていると回答している。

・発達障がいがある人が周囲にいるかどうかと、児童虐待が周囲に生じているかのクロス集計を行った。その結果、周囲に発達障がいの人があると回答した人のうち、13%が児童虐待が周囲に生じていると回答している

⇒多くの報告があるとおりに、発達障がいと児童虐待の相関がうかがわれる。

周囲でパワーハラスメントが生じているか



		発達障がいのある人が周囲にいるか				
		周囲にいる	周囲にいない	わからない	合計	
児童虐待が生じているか	この用語を知らない	n	0	1	0	1
		%	0%	1%	0%	0%
	生じていない	n	122	164	83	369
		%	87%	99%	95%	94%
	生じている	n	18	1	4	23
		%	13%	1%	5%	6%
	合計	n	140	166	87	393
		%	100%	100%	100%	100%